

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和元年 1 1 月 1 0 日掲載

1 年 2 組 酒井遙大

僕は中学校最初の合唱コンクール直前、緊張で足がガタガタ震えていた。「1 年 2 組お願いします」とアナウンスがなり大きな声で「はいっ」と返事をした。

本番だ。頭の中で練習してきたことを思い出しながらステージへ向かった。そして、合唱台に上った途端、頭が真っ白になった。指揮者が腕を振った。慌てて大きく息を吸い込んだ。そして、第一声はうまく出せた。歌を歌っているときには間違えないようにと考えながら歌っていた。いつもより長く感じた。自由曲、課題曲共に自分の持てる力を出し切った。歌い終わったら緊張してガタガタ震えていた足が元に戻っていることに気づいた。その後、他のクラスの合唱を聴いた。上級生の学級は指揮者も大きく体を使って指揮をしたり、歌っている人たちは、口を大きく開けているせいか、楽しく歌っているように見えた。そして、成績発表、僕のクラスは1 番最初に発表される。「1 年 2 組、銀賞」。金賞を取りたかった。僕はもっと表情や、体で表現しながら歌えばよかったと思った。そして、合唱コンクールの練習も自分たちでするときには歌う雰囲気をつくって取り組めばよかったと思った。

来年の合唱コンクールも目標ができた。練習から本番のような雰囲気や姿勢で歌うことだ。また、表情や体の使い方まで意識し声量を大きくなることだ。来年は必ず金賞を取りに行きたい。